

講演会

ブラジル文学の現況

Panorama atual da literatura brasileira

駐日ブラジル大使館招聘のブラジル人作家3名を京都にお招きして、ポルトガル語を専攻する学生諸君やブラジルに関心を持つ一般市民の方々を対象に、ブラジル文学について講演していただきます。ふるってご参加ください。

講師



Luiz Ruffato
ルイス・ルファット

ミナスジェライス州のカタグアゼスで1961年に生まれる。サンパウロのジャーナリズム界で活躍。記者の活動を退き、作家活動に専念。最新作は2011年の『Domingos sem Deus』。



Tatiana Salem Levy
タチアーナ・サレン・レヴィ

家族の勤務地リスボンで1979年に生まれる。9か月後に両親とブラジルに戻る。著述家であり、フランス語と英語の翻訳家。文学の博士号取得。最新作は2011年の『Dois Rios』。



Cristóvão Tezza
クリストヴァン・テザ

サンタカタリナ州ラジェスに1952年に生まれる。サンパウロ大学で学位を取得、サンタカタリナ州とパラナ州の大学で教壇に立つ。2009年以降は、作家活動に専念。

【日時】 2012年10月31日(水) 午後3時～4時30分

【場所】 京都外国語大学171教室

【言語】 ポルトガル語 (日本語への通訳付き)

【通訳】 マルガレット・ミチコ・竹原 Margarette Mitico Takehara

【入場】 無料

主催：京都外国語大学ブラジルポルトガル語学科
後援：駐日ブラジル大使館／京都ラテンアメリカ研究所